

編集後記

本誌のよいところは、症例報告が多く掲載されていること、日本語で読めることではないかと思っている。もともと日本語では症例報告の掲載できる雑誌は多くないが、英文誌においても症例報告の誌面は削減され、貴重なケースを発表し、またそういった症例を勉強できる機会が減ってきた。同じ診断名でも個々の患者さんは皆異なる個人であり、症状も合併症も皆異なるはずだ。患者さんを診ていてわからないことがあるとき、過去の症例報告を検討することはとてもためになる。多数症例の検討は言うまでもなく重要であるが、個々の症例報告から得られる臨場感は捨てがたい。本誌には、大学や市中病院など様々な施設からの多種多様な論文が掲載され、どれも大変興味深く、診療にとても役に立つ。その上、臨床神経学は、PubMed に英語のキーワードをいれて検索ができる、紛れもない PubMed 掲載誌である。抄録と図、表は英語で書かなければならないが、それによって日本語を母国語としない方にも概要を理解いただける。臨床医学の進歩は、まずは 1 例の症例報告からはじまる。それが発表され他の人々の目に触れ、新

たな報告が加わり、また検証されて最終的にひとつの概念として確立する。そして今正しいとされていることが、近い将来に完全に否定されてしまうこと、あるいはその逆も過去の歴史をみても明らかである。日々の臨床の場面において、何かこれは普通と違う、今まで指摘されたことがないのではないかと思うことがあれば、ぜひ発表してひろく意見を問うことが重要ではないか。ここ数年かと思うが、電子ジャーナル化により、英文誌にも症例報告を専門とする雑誌が増加していることはたいへん好ましいことと思っている。そういった中で、臨床神経学は、症例報告でも、図と表をあわせて最大 8 個も掲載できるので、多くの情報を共有できる。また発表された症例を討議できる Letters to the Editor もあるし、英文投稿も受け付けるなど幅広い学会誌である。投稿規定も刷新され、電子ジャーナル化も準備中など、益々進化・発展している本誌への投稿と、学会員の皆様のさらなるご支援をお願いする次第です。

(高尾 昌樹)

〈編集委員〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
瀧山 嘉久 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹 森 秀生

「臨床神経学」	第54巻 第9号	平成26年9月1日発行	
編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高橋 良輔
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>